

英語実施企画部会(第4回)
(主なポイント)

【資格・検定試験の位置付けについて】

＜資格・検定試験活用を新たな体制(1点刻みからの脱却)と位置付ける意見＞

- 高大接続改革は、センター試験を終わりにして、新たに1点刻みから脱却し、記述式を入れ、英語を複数回実施するということが基本ではなかったか。これが崩れると改革自体が頓挫する。
- 資格・検定試験の活用は、センター試験の代替ではなく、新しい体制となるということ。これまでと同じ扱いをする必要はないのではないか。
- 新しい仕組みとなるのに、従来のセンター試験の英語を基準とするのはおかしい。すでに社会に認知された民間試験を入試制度のために変えろというのは筋が違う。
- センター試験に「代わる」ものではなく、資格・検定試験を「活用する」ということ。
- センター試験の代替という考え方は難しいのではないか。当初センターが委託するという考え方があったが、困難ということで議論は一致していたはず。
- 今回の改革は、育成と選抜どちらに重きを置いているのか。英語の資格・検定試験は育成のためにあり、これを選抜に使うというのは無茶苦茶な要求。これから先の英語教育は、CAN-DOを基に育成していくことが基本。

＜資格・検定試験の活用をセンター試験の代替(識別力が必要)と位置付ける意見＞

- センターの代替ではなく、検定試験的に使うとなると、これまでのセンター試験の枠組みから離れることになる。センター試験はそもそも国立大学の共通試験として実施してきた経緯もあり、国大協がついてこられるかが課題。
- 国立大学の関係者は、センターの枠組みから抜けていないということ。その状況では、段階別で成績が来ても大学は使えないということになる。
- 全教科で段階別評価となれば考え方が変わると思うが、英語だけ違う形で結果を提供されても活用は困難。英語のみ違う形にすることは理解されない。

＜双方歩み寄る必要があるとの意見＞

- センター試験と資格・検定試験のどちらかに合わせるのではなく、歩み寄る方向で工夫すべき。
- 国語の1問8点の問題と、英語のバンド表示に大きな違いはないと思うので、この点をもっと丁寧に説明することで、大学にも理解が広がると思う。
- 現行のセンター試験は、難問・奇問を廃止、オールラウンドに基礎的達成度を見るもの。英語だけ4技能だからと言って切り出すと、オールラウンドに見られなくなる。平成36年度時点でも、センター試験をやめて英語の資格・検定試験を導入すると言い切って良いか。実現に向けて検討するという事ではないか。
- 4技能の段階別評価を入試で使うのは困難と言われるとすべて台無し。センター2技能は当面残しつつ、バンドを入れてどのように資格・検定試験を活用するかということが議論の前提。
- 4技能評価を共通テスト、資格試験、個別試験のどこかの段階で行うと決めたとうえで、センターの2技能を維持すれば理解が得やすいと思う。その際、認定試験としては、出

願資格の活用が考えられる。

- 急にバンドに代えると混乱する。バンドと点数を併用しながら試行錯誤すればよい。
- 資格・検定試験は、目標準拠型評価なのに対し、センター試験は集団準拠型評価なので、この2つを合わせて評価することに抵抗感があるのだと思う。
- 認定試験は、「共通テストか個別選抜か」「5教科7科目のルールか各大学の判断か」の整理は大事。

【資格・検定試験の活用について】

- 複数回受検の平均を活用するとしたら、受検回数の抑制効果が生まれる。複数回受検のうち、一番良い成績を使うベストパフォーマンスとすると何回も受検することになる。
- ベストパフォーマンスとするか平均とするかは大学が選ぶべき。国がどちらかに決めると、受検者の弊害となる。
- いくつも資格・検定試験がある中で平均をとるのは困難。出てきた成績はそのまま活用すべき。本来は、受検回数の制限は不要である方が望ましい。
- 一元管理すれば、受検生、大学の双方にとって利便性がある。センター試験を利用していない大学も使えるようにしたい。
- 英語のバンドの活用手段は、大学に任せればよい。この会議では、活用の例を示せばよいのではないか。

【学習指導要領との関係について】

- 国立大学の二次試験が学習指導要領に則っているのか。学習指導要領の英語の指導の基本は4技能。2技能の試験は学習指導要領との関係であり得ない。
- 1点刻みの方が公平という人は少なからずいる。学習指導要領との整合性を大学や高校が主張するのは驚き。現在の授業は2技能中心で学習指導要領に沿って教えていない。資格・検定試験の活用により、4技能が均等に評価されることが圧倒的メリット。学習指導要領に沿って4技能評価をするため、資格・検定試験を活用すること。
- 公平性は重要だが、指導できないから導入できないというのはおかしい。社会のニーズに合っていない。

【受検機会について】

- 資格・検定試験を受けることのできない生徒がいることを前提に議論すべき。生徒の門戸を閉ざすことになる可能性がある状況で、36年度から資格・検定試験だけにすると宣言する必要はない。36年度以降も機会を閉ざさないでほしい。
- 受検回数の制限は不要。試験を受けられる生徒に制限をかけるべきではない。
- 回数制限しても、模試などがあり地域差は縮まらない。どんな制約でも批判は生じる。
- 全体として受験料をどうするかの問題。英語だけの議論だと不十分。

【その他】

- 現在は、A1レベルの高校生が全体の75%。CEFR-JでもA1は3段階であり、ある意味50点刻みとなる。ふたを開けたら殆どA1でしたということもありえる。
- むしろセンター試験で150点以下の層の識別力を考慮する必要がある。
- 現在の高校生の英語レベルを前提にするのではなく、それを変えていくために議論していくべき。

会議後回収

①出願要件

- [大学] 一般入試(前期日程)

資格・検定試験(試験名とスコア)	センター試験	個別試験
TOEFL iBT 40 TOEFL PBT 435 TOEFL Junior Comprehensive 310 TOEIC L&R 400 英検 準2級 IELTS 3.5 TEAP 160 GTEC CBT 720 GTEC for STUDENTS 500	外国語 250点満点 *他に国語、地歴・公民、数学、理科 計350点満点	外国語 ー *数学、理科 計300点満点

- [大学] 特色入試([大学])

資格・検定試験(試験名とスコア)	センター試験	個別選抜
TOEFL iBT 75 IELTS 5.5	外国語 200点満点 *他に国語、地歴・公民、数学、理科 計700点満点	外国語 ー *論文、面接 計400点満点

大学入学者選抜における民間の英語資格・検定試験の活用事例

①出願要件

■ 大学 AO入試

資格・検定試験(試験名とスコア)

TOEFL iBT 79
IELTS 6.0

センター試験

外国語 100点満点

*他に国語、地歴・公民、数学、理科
計350点満点

計450点満点を160点満点に換算

個別試験

外国語 ー

*提出書類、面接
計40点満点

■ 大学 AO入試()

資格・検定試験(試験名とスコア)

ケンブリッジ英検 PET(140)
TOEFL iBT 42
TOEFL Junior Comprehensive 322
TOEIC L&R,S&W 790
英検 2級
IELTS 4.0
TEAP 226
GTEC CBT 1000
※CEFR B1以上

センター試験

外国語 200点満点

*他に国語、地歴・公民、数学、理科
計700点満点

個別選抜

外国語 ー

*出願書類、小論文、面接
計600点満点

大学入学者選抜における民間の英語資格・検定試験の活用事例

①出願要件

■ 大学 () AO入試 ()

資格・検定試験(試験名とスコア)	センター試験	個別選抜
TOEFL iBT 64 TOEFL PBT 510 英検 準1級 IELTS 5.5 GTEC CBT 1040 GTEC for STUDENTS 700	外国語 100点満点 *他に国語、地歴・公民、数学、理科 計500点満点 計600点満点を100点満点に換算	外国語 ー *調査書、志望理由書、小論文、面接 計100点満点

■ 大学 () 推薦入試 ()

資格・検定試験(試験名とスコア)	センター試験	個別試験
TOEFL iBT 72 TOEIC L&R 780 英検 準1級 IELTS 5.5 TEAP 330	外国語 ー *センター試験なし	外国語 ー (書類審査) (英語の諸技術適性検査) (面接)

大学入学者選抜における民間の英語資格・検定試験の活用事例

①出願要件

■ 大学 (一般入試)

資格・検定試験(試験名とスコア)	センター試験	個別選抜
TOEFL iBT 42 TOEIC L&R, S&W 790 英検 準1級(2016年3月以前取得) 英検 2級(2016年6月以降取得) IELTS 4.0 TEAP 226 GTEC CBT 1000	外国語 ー *センター試験なし	外国語 ー *国語、地歴・公民、数学 計250点満点

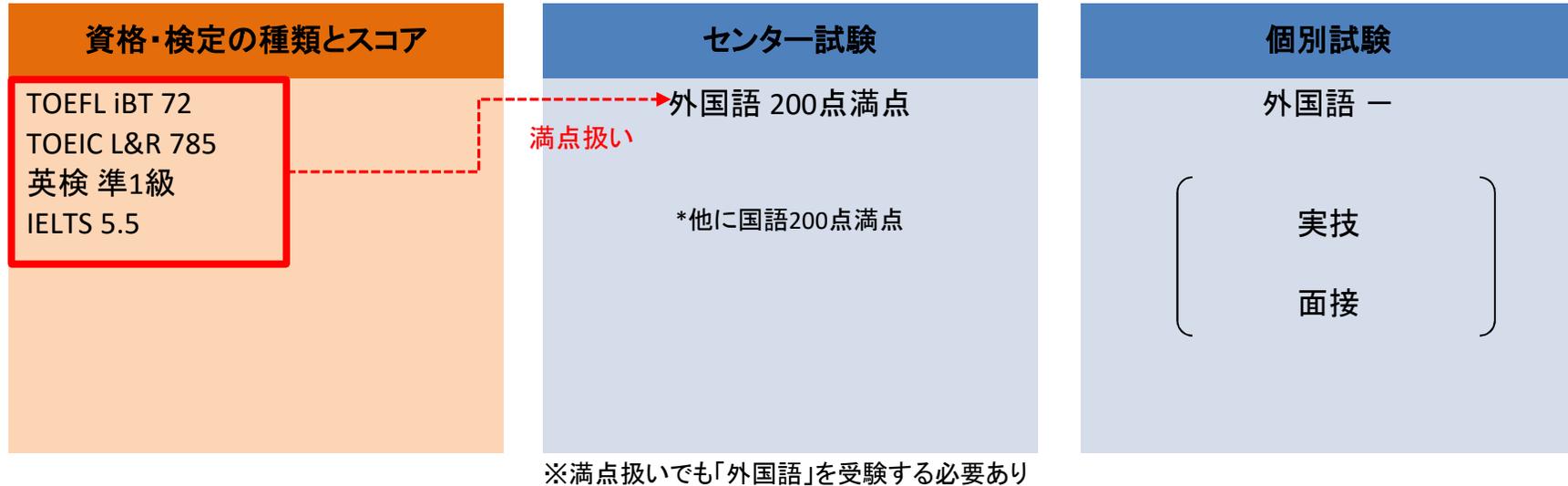
■ 大学 (一般入試)

資格・検定試験(試験名とスコア)	センター試験	個別試験
TOEFL iBT 60 英検 準1級 IELTS 6.0 TEAP 280	外国語 ー *センター試験なし	外国語 ー *国語、地歴 計125点満点

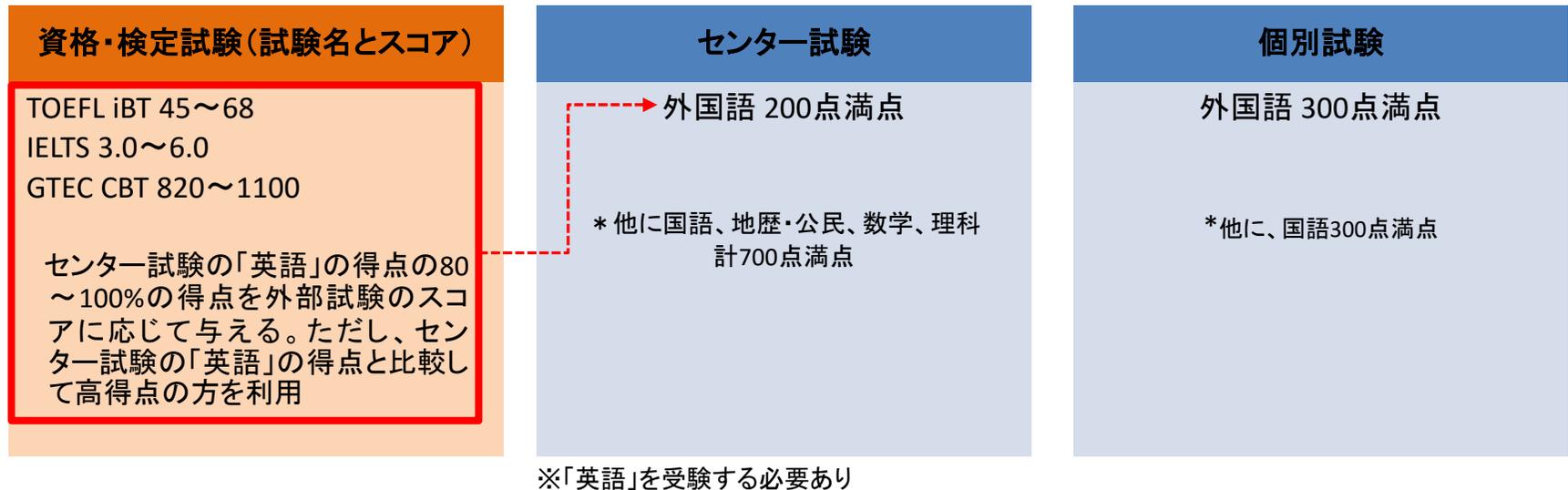
大学入学者選抜における民間の英語資格・検定試験の活用事例

②みなし満点・割合

■ 大学 一般入試(前期日程)



■ 大学 一般入試(前期日程)



大学入学者選抜における民間の英語資格・検定試験の活用事例

②みなし満点・割合

■ 大学 一般入試(前期日程)

資格・検定試験(試験名とスコア)	センター試験	個別試験
TOEFL iBT 61 TOEFL PBT 500 TOEFL Junior Comprehensive 341 TOEIC L&R 730 TOEIC L&R,S&W 1000 英検 準1級 IELTS 5.5 GTEC CBT 1040 GTEC for STUDENTS L&R&W 700 GTEC for STUDENTS L&R&W&S 850	外国語 200点満点 満点扱い *他に国語、地歴・公民、数学、理科 計100点満点	外国語 100点満点 *他に、総合問題200点満点

※満点扱いでも「外国語」を受験する必要あり

■ 大学 一般入試(前期日程)

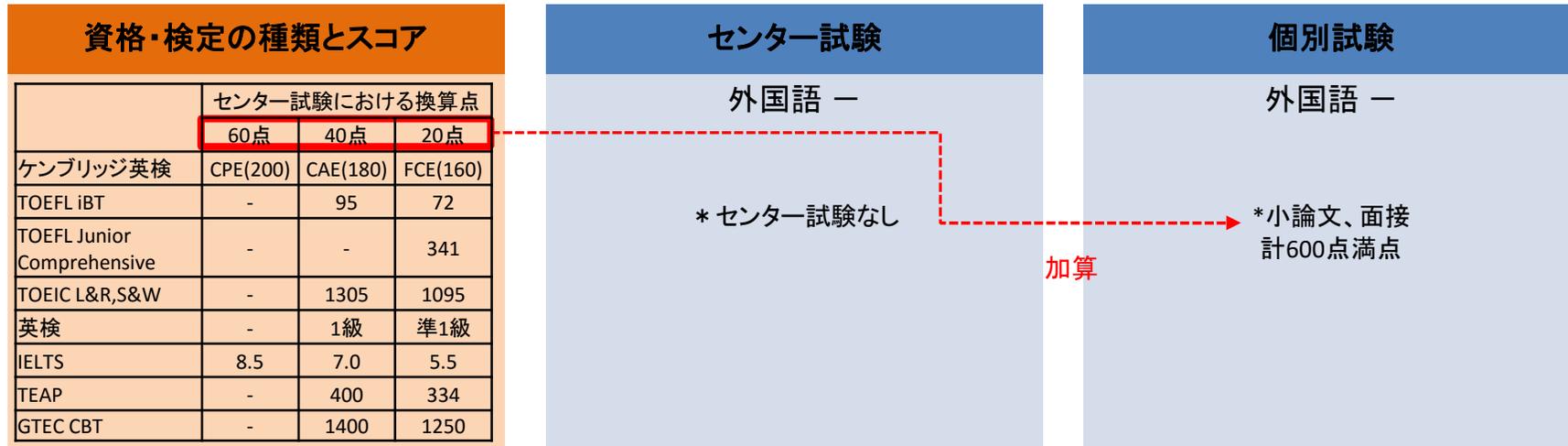
資格・検定の種類とスコア	センター試験	個別試験
ケンブリッジ英検FCE(160) TOEFL iBT 72 TOEFL Junior Comprehensive 341 TOEIC L&R,S&W 1095 英検 準1級 IELTS 5.5 TEAP 334 GTEC CBT 1250	外国語 150点満点 満点扱い *他に、国語、地歴・公民、数学、理科 450点満点	外国語 200点満点 *他に、国語200点満点

※満点扱いでも「外国語」を受験する必要あり

大学入学者選抜における民間の英語資格・検定試験の活用事例

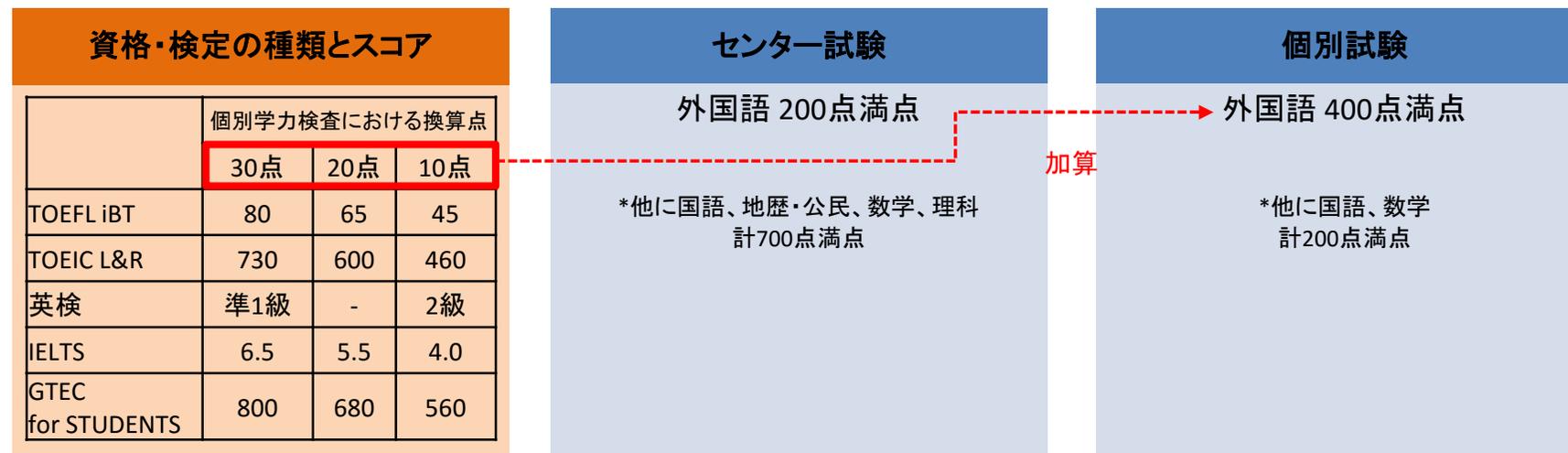
③得点加算

■ 大学 AO入試



※最終選考において上表の基準に基づいて加算

■ 大学 一般入試(前期日程)



※個別学力検査の外国語(英語)の得点として、満点を上限に加算

大学入学者選抜における民間の英語資格・検定試験の活用事例

③得点加算

大学 一般入試(前期日程)

資格・検定の種類とスコア				
	センター試験における換算点			
	30点	16点	4点	2点
ケンブリッジ英検	CAE(180)	FCE(160)	PET(140)	KET(120)
TOEFL iBT	95	72	42	25
TOEFL Junior Comprehensive	352	341	322	300
TOEIC L&R	945	785	550	350
TOEIC L&R,S&W	1305	1095	790	510
英検	1級	準1級	2級	準2級
IELTS	7.0	5.5	4.0	3.0
TEAP	400	334	226	186
GTEC CBT	1400	1250	1000	700
GTEC for STUDENTS	-	800	675	485

センター試験

外国語 200点満点

加算

*他に国語、地歴・公民、数学、理科
計700点満点

個別試験

外国語 ー

*数学、理科
計400点満点

※センター試験の外国語(英語)の得点として、満点を上限に加算

大学 一般入試(前期日程)

資格・検定の種類とスコア		
	個別学力検査における換算点	
	30点	20点
TOEFL iBT	80	73
TOEIC L&R	730	650
英検	準1級	-
IELTS	5.5	5.0
GTEC for STUDENTS	700	650

センター試験

外国語 200点満点

加算

*他に国語、地歴・公民、数学、理科
計700点満点

個別試験

外国語 200点満点

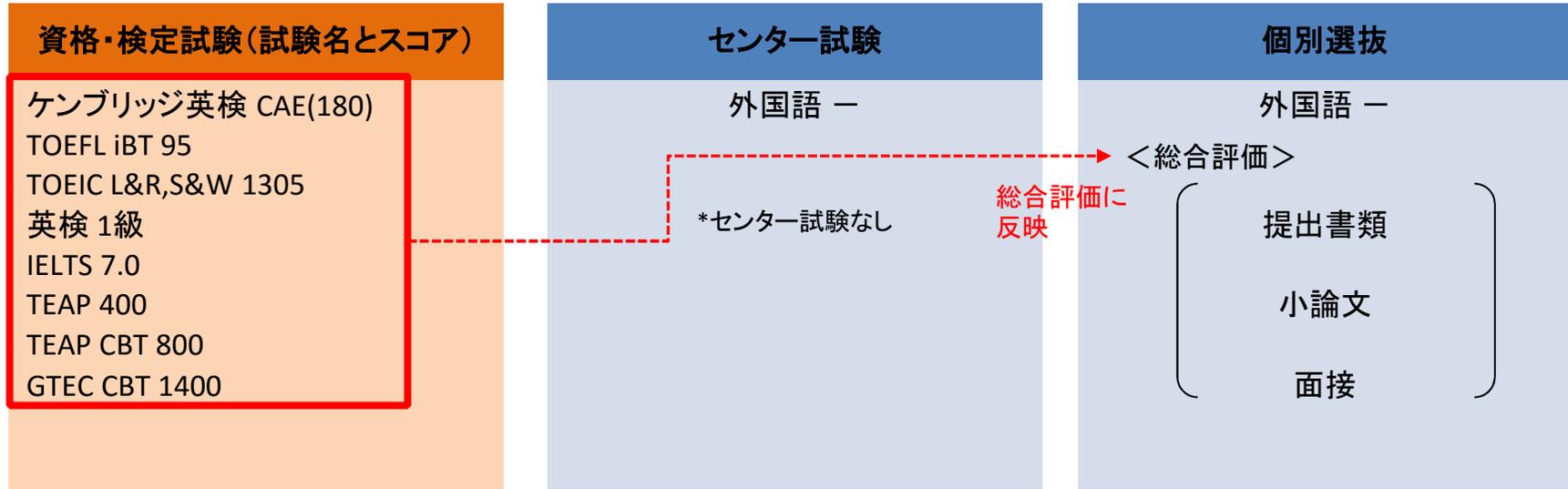
*他に小論文100点満点

※個別学力検査の外国語(英語)の得点として、満点を上限に加算

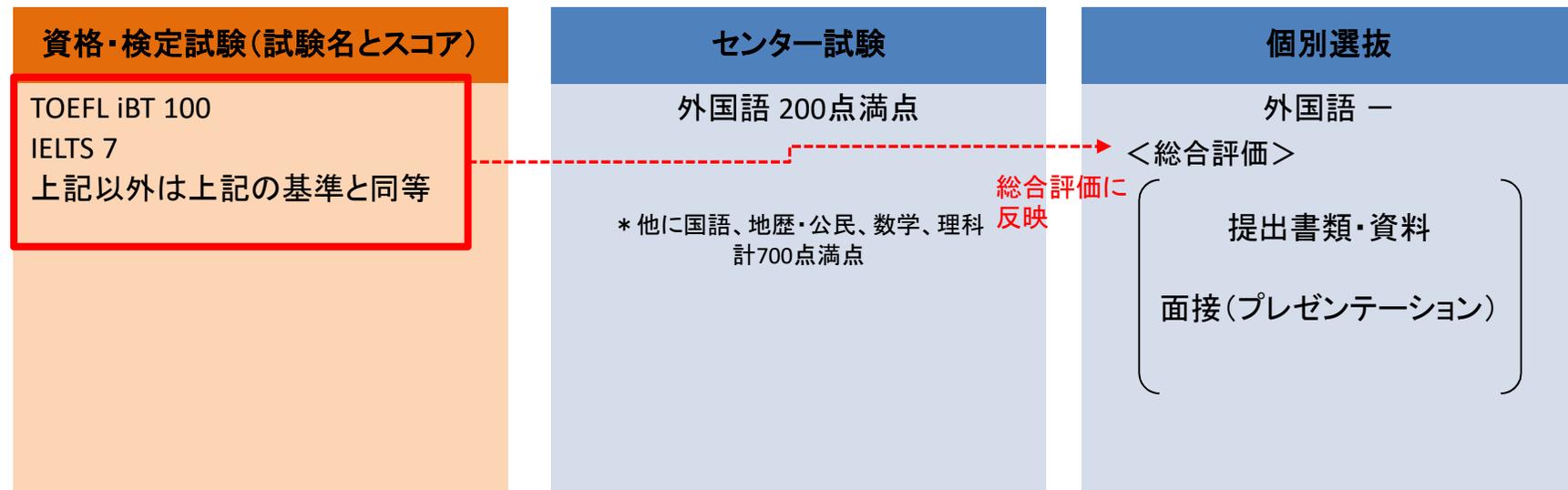
大学入学者選抜における民間の英語資格・検定試験の活用事例

④ 総合判定の一要素

■ 大学 推薦入試



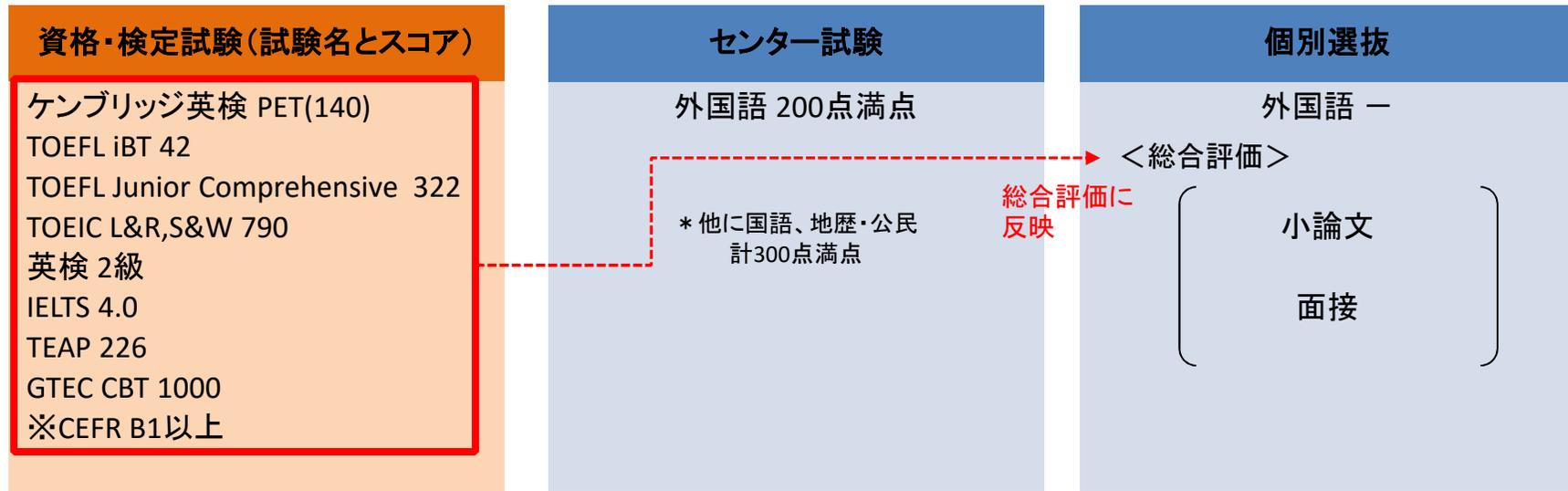
■ 大学 推薦入試



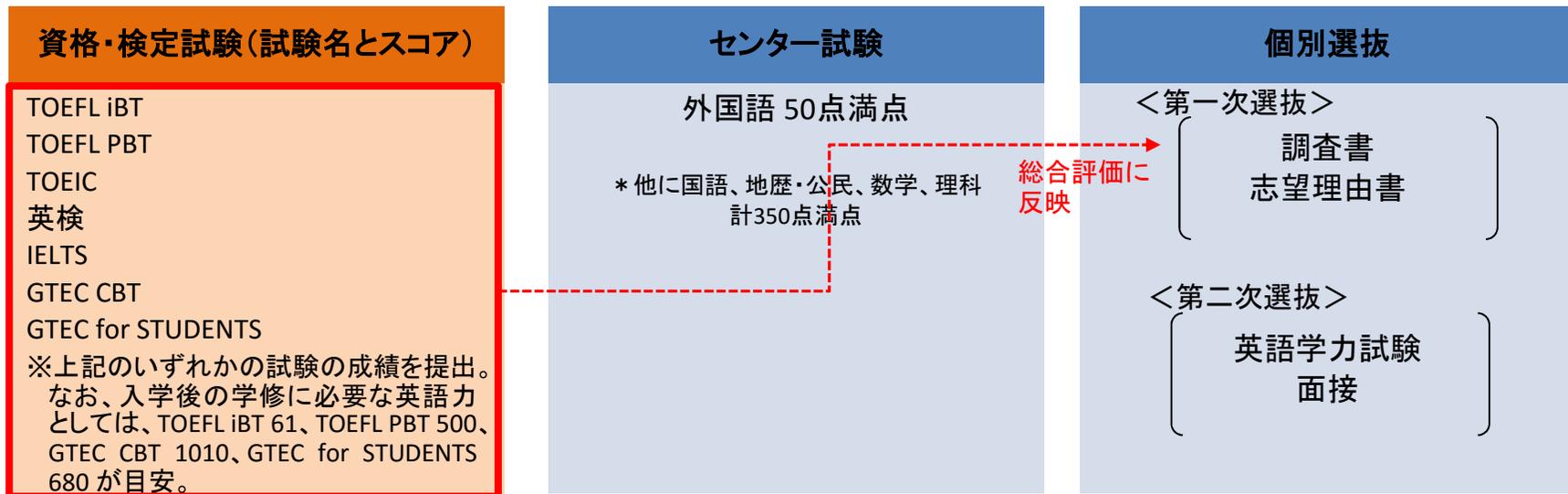
大学入学者選抜における民間の英語資格・検定試験の活用事例

④ 総合判定の一要素

■ 大学 AO入試



■ 大学 AO入試



会議後回収

■英検における高校生の受験実績

		1級	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級	合計
高校生	志願者	■	■	■	■	■	■	■	■
	合格者	■	■	■	■	■	■	■	■
	志願者総数に占める合格者の割合	■%	■%	■%	■%	■%	■%	■%	■5%

■英検 高校生（1～3年生）の成績分布

英検	CEFR	CEFR-J
1級	C1	C1
準1級	B2	B2.2
		B2.1
2級	B1	B1.2
		B1.1
準2級	A2	A2.2
		A2.1
3級 ～ 5級	A1	A1.3
		A1.2
		A1.1



○ 英検の受検実績をもとに推計したCEFRの各グレードの合格者の割合

○ この割合を、次ページの資料（左側）のセンター試験の得点分布の割合と照らし、CEFRの各グレードに対応したセンター試験の得点範囲を推計

※ ()内は、高校生の志願者合計(■人)に占める合格者の割合

*P2（センター試験の得点とCEFRの段階との関係について）は、大学入試センター試験の機微情報のため非開示

英語到達度指標（CEFR-J）について

- CEFR-Jは欧州共通言語参照枠（CEFR）をベースに、日本の英語教育での利用を目的に構築された、新しい英語能力の到達度指標です。
- CEFR-J の指標は、「言葉を使って何ができるか」ということを文章で明示する、can do という能力記述子（descriptor：デスクリプタ）を用いて記述されています。かつ、すべての項目をさまざまな調査結果を用いて検証したデスクリプタで構成されています。

CEFR



CEFR-J



【参考】CEFR-J ディスクリプターの例 ※C1、C2を除く

○読むこと

Pre-A1	A1.1	A1.2	A1.3	A2.1	A2.2	B1.1	B1.2	B2.1	B2.2
口頭活動で既に慣れ親しんだ絵本の中の単語を見つけることができる。	「駐車禁止」、「飲食禁止」等の日常生活で使われる非常に短い簡単な指示を読み、理解することができる。	簡単なポスターや招待状等の日常生活で使われる非常に短い簡単な文章を読み、理解することができる。	簡単な語を用いて書かれた、スポーツ・音楽・旅行など個人的な興味のあるトピックに関する文章を、イラストや写真も参考にしながらかけることができる。	簡単な語を用いて書かれた人物描写、場所の説明、日常生活や文化の紹介などの、説明文を理解することができる。	簡単な英語で表現されていれば、旅行ガイドブック、レシピなど実用的・具体的で内容が予想できるものから必要な情報を探ることができる。	学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事の要点を理解することができる。	インターネットや参考図書などを調べて、文章の構成を意識しながら、学業や仕事に関係ある情報を手に入れることができる。必要であれば時に辞書を用いて、図表と関連づけながら理解することができる。	現代の問題など一般の関心の高いトピックを扱った文章を、辞書を使わずに読み、複数の視点の相違点や共通点を比較しながら読むことができる。	記事やレポートなどのやや複雑な文章を一読し、文章の重要度を判断することができる。綿密な読みが必要と判断した場合は、読む速さや読み方を変えて、正確に読むことができる。

資格・検定団体との意見交換について（途中経過）

机上配布資料4

会議後回収

日時：平成29年2月7日（火）～8日（水）

対象団体：英検（英検、TEAP、IELTS）、ベネッセ（GTEC for STUDENTS）、ケンブリッジ英検、IIBC（TOEIC）、CIEE（TOEFL iBT）、GC&T（TOEFL Junior Comprehensive（廃止））

【結果の概要（主要な論点）】

＜学習指導要領との関係＞

- ・ 各資格・検定試験において、何らかの対応関係を示すことは可能。
- ・ 特に、[] テスト設計の段階から学習指導要領を考慮しており、多くの事項について対応関係の提示が可能。
- ・ 一方、[] 学習指導要領を踏まえて開発されたテストではなく、一応の対応関係を示すことはできるものの、どの程度の整合性があるかについてはより詳細な確認が必要。

＜CEFRの細分化＞

- ・ [] 試験導入後に必要であれば検証することは可能との感触。

＜実施場所＞

- ・ [] 少なくとも47都道府県において実施会場を手配可能である見込み。
- ・ [] 厳格な基準に基づく環境を満たす会場があるかどうか懸念。

＜検定料等＞

- ・ 総じて、すべての資格・検定試験が大学等の公教育機関からの無償による実施会場の提供や試験監督者等の人員確保についての支援が必要との意向。
- ・ [] 低所得者向け割引（無償化も含め）を前向きに検討、[] 引き続き検討。
- ・ [] 国外資格・検定試験については、割引は検討するが、世界的に金額を設定しているため、低所得者向けの受検料設定などは難しいのではないかと感触。

資格・検定団体との意見交換結果報告①- 1

＜試験内容と学習指導要領との対応関係の事例＞

	高等学校学習指導要領	学習指導要領に対応する試験内容の例 (出題目的・出題形式等)
	<p>第2 コミュニケーション英語 I</p> <p>2 内容 (1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。ア事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。</p> <p>イ説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。</p> <p>ウ聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。</p> <p>エ聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。</p>	<div style="background-color: black; height: 15px; width: 100%;"></div>
	<ul style="list-style-type: none"> ・事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点を捉えたりする。(コミュニケーション英語 I) ・事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。(コミュニケーション英語 II) ・説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。(コミュニケーション英語 I) ・説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また、聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。(コミュニケーション英語 II) ・聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて話し合ったり意見の交換をしたりする。(コミュニケーション英語 I) ・聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめる。(コミュニケーション英語 II) ・聞いたり、読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。(コミュニケーション英語 I) ・聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについてまとまりのある文章を書く。(コミュニケーション英語 II) 	<div style="background-color: black; height: 15px; width: 100%;"></div>

資格・検定団体との意見交換結果報告②

<CEFRの段階の細分化（CEFR-J）との対照関係について>

資格・検定試験名	対応の可否	概要
ケンブリッジ英検	■	[Redacted]
実用英語技能検定	■	[Redacted]
GTEC for STUDENTS	■	[Redacted]
IELTS	■	[Redacted]
TEAP	■	[Redacted]
TOEFL iBT	■	[Redacted]
TOEIC	■	[Redacted]
TOEIC S&W		[Redacted]

資格・検定団体との意見交換結果報告④

＜試験監督について＞

資格・検定試験名	対応の可否	概要
ケンブリッジ英検	■	[Redacted]
実用英語技能 検定	■ ■	[Redacted]
GTEC for STUDENTS	■	[Redacted]
IELTS	■ ■	[Redacted]
TEAP	■ ■	[Redacted]
TOEFL iBT	■	[Redacted]
TOEIC	■	[Redacted]
TOEIC S&W		[Redacted]

* 机上配布資料 5 は、国語・数学の記述式問題に関する機微情報のため非開示